

Market Share

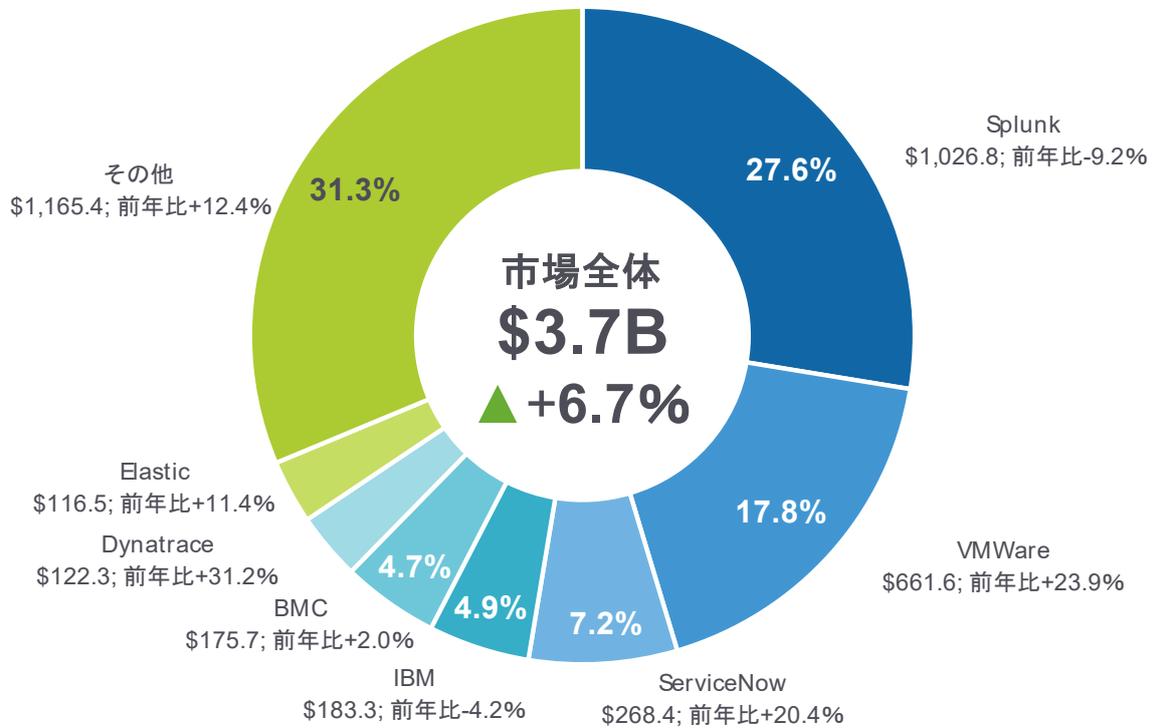
世界 IT オペレーションアナリティクスソフトウェア市場シェア、2020年：緩やかな市場成長

Tim Grieser

IDC MARKET SHARE FIGURE

FIGURE 1

世界 IT オペレーションアナリティクスソフトウェア市場シェア、2020年



2020年シェア(%)、収益(百万ドル)、成長率(%)
Source: IDC, 2021

調査概要

本 Excerpt (抜粋版) の内容は、『Worldwide IT Operations Analytics Software Market Shares, 2020: Market Growth Moderates (IDC #US48125121, 2021年8月発行)』の Excerpt (抜粋) 版である。本調査レポートには、Splunk に特に関連のある「エグゼクティブサマリー」「IT サプライヤーへの提言」「市場シェア」「注目すべきベンダー」「市場の変化」「市場定義」、ならびに Splunk (スプラUNK) に関連する図表のすべて、またはその一部が含まれる。

エグゼクティブサマリー

本調査レポートは、世界 IT オペレーションアナリティクス (ITOA) ソフトウェア市場の 2020 年の市場規模とベンダーの市場シェアに関する IDC の予測である。世界の ITOA ソフトウェア市場は、現時点での米ドル換算で、2020 年には総額 37 億ドルに達したと推測されている。2020 年の世界市場は、2019 年比で 6.7% のプラス成長になると、IDC は予測している (Figure 1 を参照)。IDC の推計によると、10 億ドルの売上を上げた Splunk が、27.6% のシェアを獲得し、2020 年の市場シェアでトップに立った。米国が売上を牽引する南北アメリカ地域の市場占有率は 64.8% であった。売上額の 24.4% が SaaS (Software-as-a-Service) のパブリッククラウドモデルによるものであると、IDC は予測している。

IDC Enterprise System Management Software のリサーチバイスプレジデントである Tim Grieser は、「2020 年の IT オペレーションアナリティクス市場は緩やかな成長を示した。主要ベンダーの売上は、コロナ禍の混乱と SaaS デリバリーモデルの採用の増加によって影響を受けた。ベンダーは、運用特性の機械学習や、将来起こり得る問題を回避するための予測的ソリューションのサポートに加え、アプリケーションとインフラストラクチャ全体に及ぶ複雑な問題のトラブルシューティングに関するログ管理や分析に対応する製品の強みによって、差別化を行った」と述べている。

IT サプライヤーへの提言

ビッグデータやアナリティクス技術が成熟し、データサイエンティストによってカスタマイズされたプログラミングがなくても、一般的な IT アナリストやビジネスアナリストが、レポートインクやクエリー、アナリティクスツールを利用できるようになるにつれ、世界の IT オペレーションアナリティクス市場は急速な進化を遂げつつある。クエリー言語によるインターフェースに代わって、グラフィカルベースのダッシュボードの使用頻度が増え、ユーザーアクセスの簡素化が進んでいる。同時に、分析可能な IT 管理データソースの範囲も拡大しつつある。

ITOA のディストリビューションモデルも変化している。現在、市場の大半はオンプレミスの専用ソフトウェアライセンスやサブスクリプションによって実現されているが、パブリッククラウドの SaaS を用いたオプションも幅広く利用できるようになってきている。また、ビジネスインパクト評価やコンプライアンス管理、予測的ナリソースアロケーションをサポートできる堅牢なソフトウェアや SaaS ソリューションを構築するために、ITOA ソリューションも APM ソリューションや構成管理ソリューションに組み込まれつつある。

ITOA ソフトウェアと SaaS のサプライヤーは、変化する市場の動向に順応するために、製品ロードマップと市場開拓戦略を継続的に改善する必要がある。現在、ベンダーが以下の点に特に留意するように IDC は提言している。

- SaaS が ITOA 市場に占める割合は今のところ小さいが、マイクロソフトやオラクルなどの大手ベンダーが SaaS ベースのソリューションを提供し始めている。これによって、企業顧客や中間層の顧客は、ビッグデータツールを使いこなせるようにならなくても、またイ

インフラストラクチャのハードウェアやソフトウェアの導入や実装のサポートに社内リソースを割かなくても、高性能な ITOA サービスに迅速にアクセスできるようになる。

- REST API と組み合わせたエージェントベースの SaaS アーキテクチャによって、大多数の組織が重要なデータソースを迅速にクラウドベースのソリューションに統合することができるようになり、ブラウザベースのクエリツールやダッシュボードを使用することで、IT 運用アナリスト、DevOps アナリスト、ビジネスアナリストたちが幅広くアクセスできるようになる。オンプレミスソリューションで成功したベンダーは、変化し続ける市場の動向を注意深く監視する必要がある。
- ペルソナベースの営業やマーケティング戦略が重要である。ITOA ソリューションはさまざまなタイプのバイヤーに、さまざまな理由で訴求する。たとえば、IT 運用チームは、何千件ものイベントやアラートを検索、重複排除、フィルタリングし、日々の運用やパフォーマンスにとって本当に重要なごくわずかのものを見出すために ITOA に注目することがある。DevOps チームであれば、複雑な Web アプリケーションやモバイルアプリのコードのスタックや統合の根本原因を特定し、新しい特徴や機能がパフォーマンス、キャパシティ、エンドユーザーエクスペリエンスに与える影響を予測できるソリューションを求めているかもしれない。インフラストラクチャチームは、キャパシティ要件を予測することで、ハードウェアやインフラストラクチャソフトウェアへの新規投資をより正確に予測し、正当化する方法を探しているかもしれない。
- 成功するベンダーは、画一的なマーケティング戦略を避け、時間をかけて必要に応じて拡張しながら、個々の役割に付加価値を与えることができる製品の提供に注力していくであろう。
- バイヤーの好みは、スタンドアロン型から統合型の ITOA ソリューションへと変化している。さまざまな IT 運用に関する問題やユースケースに適用できる高性能のアナリティクス機能を提供することで、純粋な ITOA ソリューションの価値が高まる。しかし、データの統合やレポートのカスタマイズには時間がかかり、多くの IT 運用チームや DevOps チームが現在有しているレベル以上のスキルが必要となる。ITOA を、スイートや APM、構成、キャパシティ管理にも対応したソリューションの一部として組み込むことで、統合やレポートを事前に定義し、顧客の高度なアナリティクスへのアクセス向上を可能にするベンダーが増えている。日々の運用ワークフローやツールに簡単に組み込むことができる ITOA ソリューションは、幅広く採用される可能性が高い。
- 地政学的な混乱や不透明な経済状況が続くと、特定の産業や地域の需要に影響を与える可能性がある。現在、APM、仮想化、クラウドへの投資が堅調である国では、ITOA の需要がさらに拡大する可能性がある一方、新興国ではこうしたタイプのソリューションの価値がすぐには認識されない可能性がある。

市場シェア

ITOA ソフトウェア市場に対する IDC の見解では、ビッグデータテクノロジーとスケーラビリティに優れたクラウドベースのコンピューティングアーキテクチャによって、機能の急速な拡大が実現しつつあると認識している。わずか数年のうちに、ITOA は、ビッグデータの概念を IT ログアナリティクスや検索に適用することに力を入れたものから、パフォーマンス予測や異常検知、キャパシティやインフラの最適化、APM や IT インフラのパフォーマンスがもたらすビジネスへの影響まで扱うものに進化した。

そのため IDC は、今回の ITOA の市場シェア分析において、幅広いベンダーや製品を取り上げた。

Table 1 で示されるように、2020 年は、10 億ドルの売上を上げ、27.6% のシェアを獲得した Splunk が首位に立った。続く 2 位は、6 億 6,200 万ドルの売上を上げ、17.8% のシェアを獲得した VMware (ヴィエムウェア)。3 位となった ServiceNow の売上は 2 億 6,800 万ドルで、シェアは 7.2% であった。

TABLE 1

世界 IT オペレーションアナリティクスソフトウェア市場 ベンダー別 売上額シェア、2018 年～2020 年

	2018	2019	2020	2020 年 売上額 シェア (%)	2019 年～ 2020 年の 前年比成長率 (%)
売上額 (百万円)					
Splunk	889.0	1,130.6	1,026.8	27.6	-9.2
VMware	470.1	534.0	661.6	17.8	23.9
ServiceNow	155.4	222.9	268.4	7.2	20.4
IBM	187.3	191.3	183.3	4.9	-4.2
BMC	165.3	172.2	175.7	4.7	2.0
その他	1053	1234.2	1404.1	37.8	13.8
合計	2,920.1	3,485.2	3,719.9	100.0	6.7

Source: IDC, July 2021

注目すべきベンダー

2020 年において、ビッグデータテクノロジーの利用は拡大を続け、企業の IT 運用チームや DevOps チームは、機械学習、予測アナリティクス、異常検出、ログアナリティクス、ダイナミックキャパシティ予測をより広範囲に活用し始めた。常に範囲を拡大しつつあるシステム管理ソフトウェアや SaaS のベンダーは、専業 (pure play) の ITOA ベンダーとの提携を開始、拡大し、また APM、キャパシティプランニング、構成管理、クラウド管理のソリューションに組み込まれた ITOA のコア機能の拡張を行った。同時に、スタートアップベンダーも自社のビジネス戦略や市場開拓戦略を改善しながら、その勢いを拡大し続けた。2020 年の ITOA 市場を形成したベンダーは以下の通りである。

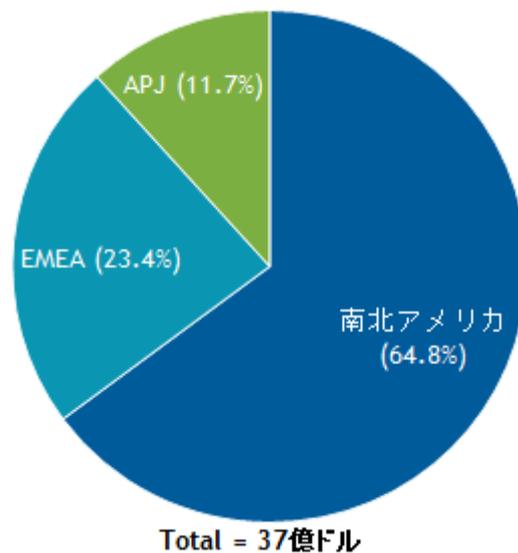
- Splunk** は、2020 年の ITOA 市場シェアで 7 年連続トップを維持した。ITOA 市場における同社の売上は、ログ管理および分析機能の拡大によって牽引された。データソース数、データ量、ユースケースが継続的に拡大し、顧客の導入数も増えた。多種多様なマシンデータからのビッグデータ取得、インデックス作成、管理、検索などの機能は、データクエリー、分析、グラフィカル表示を統合してパネルベースのパッケージにしたダッシュボードによってさらに強化されつつある。Splunk は、プリパッケージングされたコンテンツのほか、IT 運用、APM、IT サービスインテリジェンスなど、多様なユースケースに対する視覚化もサポートしており、Splunk ベースのアナリティクスを、ますます多様化する IT ユーザーやビジネスユーザーが利用できる状態にしている。今後サポートされるデータソースやユースケースはさらに拡大すると、IDC は予測している。

市場の変化

2020年の世界 ITOA ソフトウェア市場は、南北アメリカ地域の需要が支えることで、緩やかな成長を示した。Figure 2は、地域別の売上額構成比を示す。南北アメリカ地域は、2020年の市場全体の64.8%を占め、次いで、EMEA（欧州、中東、アフリカ）が23.4%、APJ（日本を含むアジア太平洋地域）が11.7%となっている。

FIGURE 2

世界 IT オペレーションアナリティクスソフトウェア市場 地域別 売上額構成比、2020年

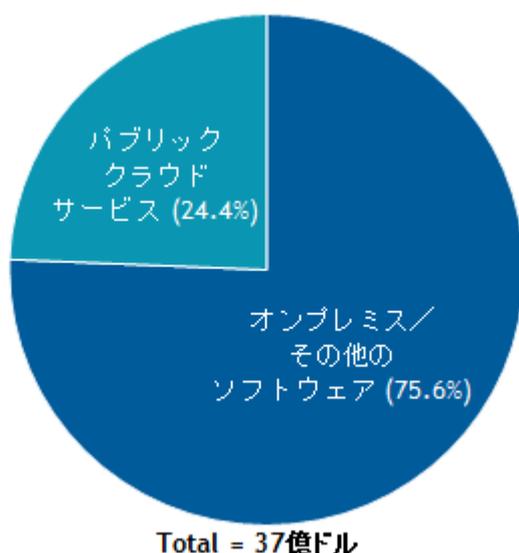


Source: IDC, 2021

既存の企業とスタートアップ双方による SaaS ベースの導入が急速に拡大したため、パブリッククラウド (SaaS) ベースの ITOA ソフトウェアの提供は、売上全体に占める割合が2019年の19.3%から、2020年には24.4%に増加した (Figure 3を参照)。

FIGURE 3

世界 IT オペレーションアナリティクスソフトウェア市場 導入タイプ別 売上額構成比、2020 年



Source: IDC, 2021

市場動向ハイライト

多くのベンダーが、ソリューションをより使いやすく、またデータサイエンティスト以外の人々にも利用しやすくするための手段を講じたことで、ITOA ソフトウェアの世界市場は全般的に緩やかな成長を遂げた。APM、キャパシティ、構成管理ソリューションの一環として提供される純粋な製品や ITOA ソリューションによって、ミッションクリティカルなアプリケーションのパフォーマンス向上やインフラストラクチャの利用改善において、ログ解析と予測アナリティクスが提供できるベネフィットが実証された。

市場の成長は、ドル高とビッグデータへの幅広い関心が需要を後押しした南北アメリカ地域の需要が牽引したものであった。パブリッククラウドの SaaS ベースの ITOA ソリューションは、変化が速い DevOps チームやクラウドネイティブの開発者たちにその魅力を示したが、これまでオンプレミスのソリューションに依存してきた、より保守的なエンタープライズクラスの IT 運用チームからの支持を得るには至っていない。

調査方法

IDC のソフトウェア市場規模調査および市場予測において提示するのは、商用ソフトウェアの売上額である。IDC は、市販のソフトウェアをカスタムメイドのソフトウェアとは区別する目的で「商用ソフトウェア」という用語を用いている。商用ソフトウェアは、販売、リース、レンタル、またはサービスの形で市販されているあらゆるタイプのプログラムまたはコードセットである。商用ソフトウェアの売上には、通常、商用ソフトウェアの当初のおよび継続的な利用許諾権に対する料金が含まれる。これらの料金には、利用許諾契約の一部として、利用許諾権の料金体系とは不可分の製品サポートおよびその他のサービスの利用権が含まれる場合もあるが、そのようなサポートの料金が別途設定される場合もある。アップグレードについても、継続使用権に含まれる場合もあれば、料金が別途設定される場合もある。IDC は、これらすべてを商用ソフトウェアの売上とみなしている。

商用ソフトウェア売上には、著作権許諾権から切り離されている（つまり、別売りの）トレーニング、コンサルティング、システム統合から生じるサービスの売上は含まれないが、別の価格方式によってソフトウェア機能を提供するサービスに含まれるソフトウェアの内在的な価値は含まれる。この商用ソフトウェア売上額合計を、さらに市場、地域、運営環境に配分している。世界のソフトウェア市場には、すべての機能市場セグメントまたは市場の集合体全体に渡る商用ソフトウェアのあらゆる売上が含まれる。詳細については、『IDC's Worldwide Software Taxonomy, 2021 (IDC #US47588620, 2021年4月発行)』を参照のこと。2020年のボトムアップおよび企業レベルのデータ収集は2021年1月に開始した。同時にベンダーの徹底的な調査および分析も行い、市場別、地域別、運用環境別の詳細な2020年の企業モデルを作成した。

Note: 本調査レポートにおけるすべての数値は四捨五入のため、完全に厳密なものではない場合がある。

市場定義

ITオペレーションアナリティクス (ITOA) は、IDCのITオペレーション管理 (ITOM) ソフトウェア市場の一部から派生したコンペティティブ市場である。ITOMソフトウェア市場は、ITログ/イベント管理ソフトウェア、またはパフォーマンス管理ソフトウェアとしてこれまで計上されていた売上を、一つに統合した市場である。ITOAは、ビッグデータ処理機能をベースに、ITログ管理、ログ検索と分析、および関連する履歴/予測パフォーマンス、キャパシティ、根本原因分析を提供する。その主な目的は、本番のアプリケーションやインフラストラクチャコンピューティング環境のIT運用のサービスレベルをほぼリアルタイムで最適化することである。また、APM、および関連するITオペレーションアナリティクスデータに基づいたオンラインアプリケーションアナリティクス、ビジネスインパクトアナリティクスといった新たな分野も含まれる。

ITOAの主なベネフィットには、以下のようなものがある。

- サービスの中断、遅延、停止の回避
- 根本原因分析と問題復旧時間の短縮
- システムパフォーマンスとアプリケーションパフォーマンスの向上
- エンドユーザーエクスペリエンスの向上
- 運用効率の向上
- コンピューティングリソース利用率の向上

本番コンピューティング環境には、従来のデータセンター、完全に仮想化されたインフラストラクチャ、またパブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウド環境で実行されるインフラストラクチャ、ミドルウェア、アプリケーションが含まれる。ITオペレーションアナリティクスの機能は、オンプレミスで導入されるライセンスを供与されたソフトウェア製品またはサブスクリプションベースのソフトウェア製品として提供されるか、あるいはSaaSパブリッククラウドソリューションとして提供されることが可能である。

参考資料

関連調査

- *Worldwide IT Operations Management Software Market Shares, 2020: Market Growth Moderates Amid Pandemic Disruptions* (IDC #US47730921、2021年6月発行)
- *IDC's Worldwide Software Taxonomy, 2021* (IDC #US47588620、2021年4月発行)
- *Worldwide IT Operations Management Software Forecast, 2021-2025* (IDC #US47409121、2021年2月発行)
- *Worldwide IT Operations Analytics Software Forecast, 2020-2024* (IDC #US46958720、2020年11月発行)

IDC 社 概要

International Data Corporation (IDC) は、IT および通信分野に関する調査・分析、アドバイザリーサービス、イベントを提供するグローバル企業です。50年にわたり、IDCは、世界中の企業経営者、IT 専門家、機関投資家に、テクノロジー導入や経営戦略策定などの意思決定を行う上で不可欠な、客観的な情報やコンサルティングを提供してきました。

現在、110 か国以上を対象として、1,100 人を超えるアナリストが、世界規模、地域別、国別での市場動向の調査・分析および市場予測を行っています。

IDC は世界をリードするテクノロジーメディア（出版）、調査会社、イベントを擁する IDG（インターナショナル・データ・グループ）の系列会社です。

Global Headquarters

140 Kendrick Street
Building B
Needham, MA 02494
USA
508.872.8200
Twitter: @IDC
blogs.idc.com
www.idc.com

Copyright Notice

This IDC research document was published as part of an IDC continuous intelligence service, providing written research, analyst interactions, telebriefings, and conferences. Visit www.idc.com to learn more about IDC subscription and consulting services. To view a list of IDC offices worldwide, visit www.idc.com/offices. Please contact the IDC Hotline at 800.343.4952, ext. 7988 (or +1.508.988.7988) or sales@idc.com for information on applying the price of this document toward the purchase of an IDC service or for information on additional copies or web rights.

Copyright 2021 IDC. Reproduction is forbidden unless authorized. All rights reserved.

